

(参考) 他県の事例

(1) 不登校特例校

事例1 八王子市立高尾山学園小学部・中学部（東京都）（全国初）

(1) 設置時期	2004年4月（全国初）																
(2) 児童生徒を受け入れる要件	八王子市に居住。病気や経済的な理由を除き、年間30日以上欠席。本校への登校意欲がある児童生徒。																
(3) 児童生徒数	<p>91名（2019年12月1日現在）。適応指導教室の登校や活動状況により年10回の転入を受け入れ。例年、年度末には100名を超える規模。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>小4</th> <th>小5</th> <th>小6</th> <th>中1</th> <th>中2</th> <th>中3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童生徒数</td> <td>4人</td> <td>1人</td> <td>10人</td> <td>18人</td> <td>21人</td> <td>37人</td> <td>91人</td> </tr> </tbody> </table>	学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計	児童生徒数	4人	1人	10人	18人	21人	37人	91人
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計										
児童生徒数	4人	1人	10人	18人	21人	37人	91人										
(4) 入学手続等	市教委登校支援室において面談を行い、適応指導教室に入級し、高尾山学園の授業見学、授業参加、生活体験を経て、転入学審査会にて転入を許可。入学時期：年10回（8月、3月を除く）																
(5) 進学	<p>ほぼ全員が希望する高校に進学（定時制・通信制高校が多い）</p> <p>（参考）過去5年間の進路先：通信制私立高校48%、定時制都立高校28%、全日制私立高校8%、全日制都立高校5%、高等専修学校5%、その他6%</p>																
(6) 教育活動等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の総授業時間数：760時間程度（標準授業時数：1015時間） 週19時間、授業開始時間は9時30分（他の学校より遅い時間のスタート）、火曜日と木曜日の午後は講座学習の4時間が加わる。 授業時間は、小・中学部ともに45分。 ・コース選択：中学2・3年生は2つの異なった授業スタイルから、自分に合ったコースを選択できる。途中で変更することもできる。 ベーシックコース：現在の学力を向上させることを目指し、可能な限り、個に応じた指導をする。 チャレンジコース：一斉授業で学年相応の内容を学習する。 ・体験学習：総合的な学習の時間を使った体験的な講座学習を120時間実施（標準授業時数50～70時間） 講座学習は、小・中合同で行う授業で、教科にとらわれず、それぞれの興味や特技を伸ばすことを目標 火曜日：卓球、スポーツ、演劇、イラストものづくり、陶芸、ラクロス、映像研究、カプラ・ゲーム等 木曜日：バドミントン、サッカー、クラフト・クッキング、テニス、音楽、畑、読書・学習、テクニカル・カレッジ等 校外体験学習として、各学年、年4回以上、宿泊体験活動を全学年で実施する。 ・小中一貫教育として「学園四季祭」を年4回実施。社会体験・自然体験・生活体験を中心に地域交流学習や職業体験なども実施。 ・教員が心理相談員と協力して、人との関わり方など、社会性のスキル（SSP：ソーシャル・スキルズアップ・プログラム）を学ぶ。 																

事例2 岐阜市立草潤中学校（岐阜県）

(1) 設置時期	2021年4月										
(2) 児童生徒を受け入れる要件	岐阜市在住の生徒。原則として、不登校となっている（なっていた）児童生徒。 学校説明会等に参加し、草潤中学校について理解した上で、草潤中学校で学ぶ意欲のある児童生徒。										
(3) 児童生徒数	<p>43名（2022年度）。 定員は全校生徒40名程度。新1年生は、13名程度募集。新2年・3年生についても、転入できるよう、若干名を追加募集する。</p> <table border="1" data-bbox="795 594 1495 695"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>中1</th> <th>中2</th> <th>中3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童生徒数</td> <td>10人</td> <td>15人</td> <td>18人</td> <td>43人</td> </tr> </tbody> </table>	学年	中1	中2	中3	計	児童生徒数	10人	15人	18人	43人
学年	中1	中2	中3	計							
児童生徒数	10人	15人	18人	43人							
(4) 入学手続等	<p>学校説明会（9月・10月）、学校体験会（11月）、個別面談（11月後半～）を経て、本人・保護者、学校・子ども若者支援センター等と相談して、入学・転入生徒を1月中旬までに決定。</p> <p>（2021年度実績）</p> <p>学校説明会 参加児童生徒117人（第1回・第2回の合計） 学校体験会 参加児童生徒87人 児童生徒・保護者との個別面談 参加児童生徒84人 入学・転入生徒決定 新1年生 10人、新2年生 2人、新3年生6人</p>										
(5) 進学	<p>卒業生15人全員が高校等に進学（通信制高校が多い）</p> <p>（参考）進路先：公立全日制1人、私立全日制2人、公立通信制1人、私立通信制10人</p>										
(6) 教育活動等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の総授業時間数：770時間程度（標準授業時数：1015時間） 授業開始時間は9時30分（他の学校より遅い時間のスタート）。授業時間は、50分。 ・コース選択：必ず登校する必要はない。 家庭での学習を基本にして学習を進める学び、家庭で学習して週に数日登校する学び、毎日登校する学びを選択。 ・特色ある教育内容： <ul style="list-style-type: none"> ・担任は、5月に生徒の希望で決定。（年度途中の変更も可） ・学期ごとの定期テストは、一斉に実施せず、希望者がテストを受ける。評価は、個別の学習状況のもと、個別に評価を行う。 ・自分で学習内容や学習場所を決める。 ・「セルフデザイン」音楽・美術・技術・家庭の中から、一人ひとりが自分の興味・関心のある学習に取り組む。 ・「ウォームアップ」「クールダウン」生徒が自分で選んだ担任と、一日の学習の予定を確認したり、一日の振り返りを行ったりする。 										

(2) 工業科の中高一貫校

事例1 秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校

(1) 導入時期	2004年4月 全国初の普通科と工業系の学科をもつ中高一貫教育校
(2) 募集人員・入学者数 (2022年度)	中学校 募集人員2学級70人 入学者数30人 高等学校 普通科 募集人員2学級80人 入学者数78人 総合技術科 募集人員2学級70人 入学者数46人
(3) 中学校の主な教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の総授業時間数：1050時間（標準授業時数：1015時間） ・独自教科： <ul style="list-style-type: none"> 「グローバルコミュニケーション」自分の考えを英語で発信し、コミュニケーション能力を育成 「ものづくり」総合技術科の設備と高校の指導者を生かした教育 ・探究Jr（総合的な学習の時間）： <ul style="list-style-type: none"> 高校で行われている「探究」の学びにつながるよう、探究の基礎的なスキルを学ぶ。 中学校3年生で、高校生の探究発表会に参加。
(4) 高等学校の教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科： <ul style="list-style-type: none"> 2年次に、グローバルコース（大学進学）と地域文化コース（就職等）のどちらかのコースを選択する。 ・総合技術科： <ul style="list-style-type: none"> 1年次に、基礎的な工業科目を幅広く学習した上で、2年生からは、自分の希望進路実現に向けてコースを選択する。 機械コース：部品の加工、組立からロボット制御に関する知識や技術を身に付ける。 電気情報コース：電気と情報に関する基本的な知識と技術を身に付ける。 建設コース：建設土木の業務に関する知識と技術、管理者として必要な能力を身に付ける。 ・卒業生の進路状況： <ul style="list-style-type: none"> 普通科：大学・短大等42人（64.6%） 専修学校11人（16.9%） 就職8人（12.3%） 総合技術科：大学・短大等16人（24.2%） 専修学校11人（16.7%） 就職39人（59.1%） ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定（2010年～2014年、2015年）